

新任特別支援学級担任教員研修 第4研修

「学習指導案の作成とポイント」

資料集



福井県特別支援教育センター

小(中)学校学習指導要領 ※()内は中学校

前文

第1章 総則

第1 小(中)学校教育の基本と教育課程の役割

何ができるようになるか

- 1 教育課程編成の原則
- 2 生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開
 - (1) 確かな学力、(2) 道徳教育、
 - (3) 体育・健康に関する指導
- 3 育成を目指す資質・能力
- 4 カリキュラム・マネジメントの充実

第2 教育課程の編成

何を学ぶか

- 1 各学校の教育目標と教育課程の編成
- 2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
 - (1) 学習の基盤となる資質・能力
 - (2) 現代的な課題に対応して求められる資質・能力
- 3 教育課程の編成における共通的事項
 - (1) 内容の取扱い
 - (2) 授業時数の取扱い
 - (3) 指導計画の作成等に当たっての配慮事項
- 4 学校段階等間の接続
 - (1) 幼児期の教育との接続及び低学年における教育全体の充実
 - (1) 義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程の編成)
 - (2) 中学校教育及びその後の教育との接続
 - (2) 高等学校教育及びその後の教育との円滑な接続)

第3 教育課程の実施と学習評価

どのように学ぶか
何が身に付いたか

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - (2) 言語環境の整備と言語活動の充実
 - (3) コンピュータ等や教材・教具の活用、コンピュータの基本的な操作やプログラミングの体験
 - (4) 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動
 - (5) 体験活動
 - (6) 課題選択及び自主的、自発的な学習の促進
 - (7) 学校図書館、地域の公共施設の活用
- 2 学習評価の充実
 - (1) 指導の評価と改善
 - (2) 学習評価に関する工夫

第4 児童(生徒)の発達の支援

子供の発達を
どのように支援するか

- 1 児童(生徒)の発達を支える指導の充実
 - (1) 学級経営、児童(生徒)の発達の支援
 - (2) 生徒指導の充実
 - (3) キャリア教育の充実
 - (4) 指導方法や指導体制の工夫改善など子に合った指導の充実
- 2 特別な配慮を必要とする児童(生徒)への指導
 - (1) 障害のある児童(生徒)などへの指導
 - (2) 海外から帰国した児童(生徒)や外国人の児童(生徒)の指導
 - (3) 不登校児童(生徒)への配慮

第5 学校運営上の留意事項

実施するために何が
必要か

- 1 教育課程の改善と学校評価(、教育課程外の活動との連携)等
- 2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

第6 道徳教育に関する配慮事項

学習指導要領（平成29年3月31日公示）における「カリキュラム・マネジメント」に関する記述

総則

小学校学習指導要領

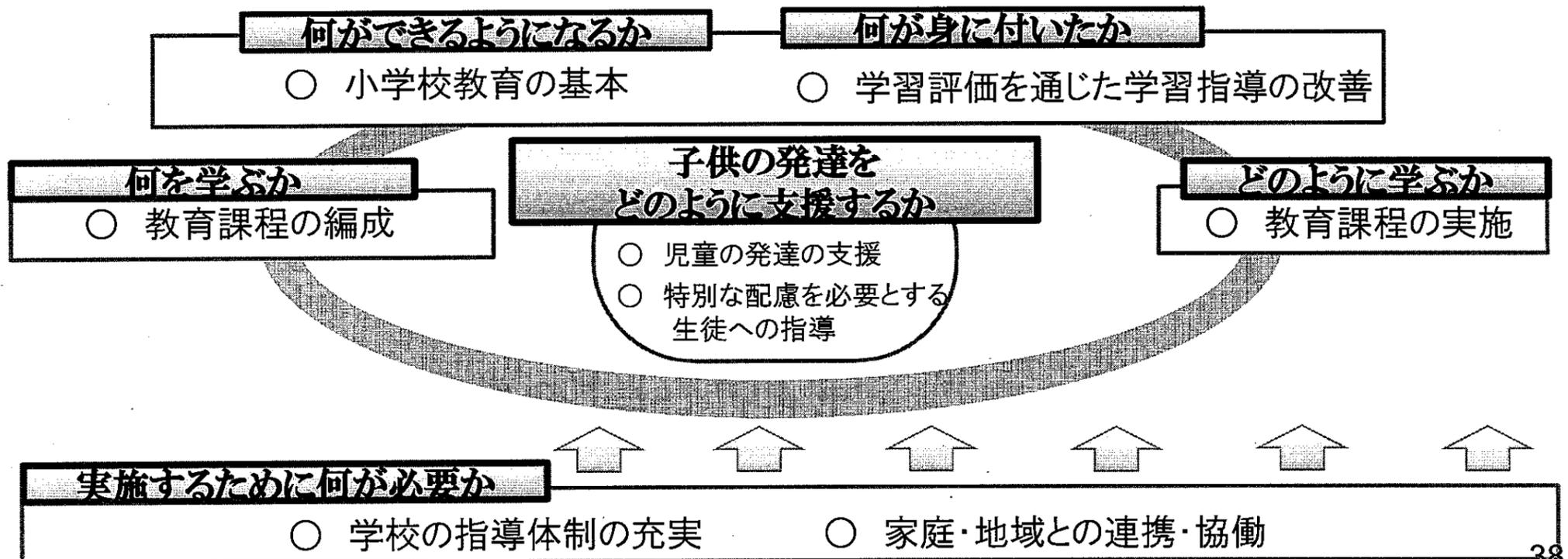
第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

第5 学校運営上の留意事項

1 教育課程の改善と学校評価等

ア 各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。



〇〇・〇〇学級 国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日（金） 第4 限目

〇〇 教室
〇〇 (T1)
〇〇 (T2)

〈単元、題材、主題の考え方の目安〉

単元：学習内容の有機的なまとまりを示すもの。
領域・教科を合わせた指導 で用いる。 ex. 生単、作業学習

題材：教科における系統性等を背景にもった学習活動の材料を示すもの。
教科別の指導、特別活動で用いる。 ex. 国語、算数

主題：特別の教科道徳、自立活動で用いる。

★ 1 単元（題材）名 「〇〇〇〇 」

★ 2 単元（題材）設定の理由

(1) 学級及び児童生徒の実態

- ・設置学級の 障害種別、在籍児童生徒数、障がいの状態について記述。
- ・個々の実態は、「～ができない」という否定的な内容でなく、「できつつあること」「少し頑張ればできそうなこと」など、肯定的な表現で記述する。

(2) 単元（題材）観

- ・単元（題材）の特徴、単元（題材）を学習する意義や価値、単元を通して児童生徒に望む姿や付けたい力を記述する。
- ・個別の指導計画や学習指導要領の内容・項目との関連、既習教材や教科・領域、日常生活との関連等を記述する。

(3) 指導観

- ・児童生徒が主体的に活動に取り組むことができるように、指導上の教師の支援を具体的に記述する。
 - ・展開の仕方、指導形態、指導方法の工夫
 - ・単元（題材）を通じた具体的な支援
 - ・教材・教具の工夫、教師の協力体制

★ 3 単元（題材）の目標

- ・児童生徒の実態をもとに、単元（題材）を見通した全体の目標を設定。
 - ・目標は、児童生徒の立場で記述。
 - ・観点別学習状況の評価は3観点を踏まえて記述。
(R3～改訂により4観点から3観点に変更)
- 「知識・技能」
「思考・判断・表現」
「主体的に学習に取り組む態度」

4 単元（題材）の評価規準

・各観点に関して、何に着目して評価するかという評価する内容を記述。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5 単元（指導）計画と評価の計画

・児童生徒が見通しを持って、学習に取り組める計画を考える。
 ・評価計画には指導計画に沿って3観点の内容をどのように重点をもって指導していくかを示す。

次	時	主な学習活動			
			知識・技能	思・判・表	主体的な態度
一	1				
	2				
二	1				
	2				

★ 6 児童生徒の単元（題材）に関する個別の実態及び目標

・実態を書く際には、できるだけ否定的な表現は避け、どういう支援があればできるのかを記述。

児童（生徒）名	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標

★ 7 本時について

(1) 本時の目標

- ・ 単元（題材）の全体目標に基づいて、本時の学習の全体目標を記述。
- ・ 単元（題材）の個人目標に基づいて、本時の学習の個人目標を記述。
児童生徒の立場で、具体的な活動を記入。
※ 授業後評価できるように、できるだけ具体的に記述する。

目 標	全体				
	個人	A	B	C	D

(2) 展開

- ・ 児童生徒の立場で具体的な活動を記述する。

- 書き方は2パターン
- 例① 全体の流れの中に個人の流れをもちこむ
 - 例② 個人ごとに活動、支援を記述する。
全体に共通する課題があれば記述する。

	学習活動	主な発問(○)・予想される児童の反応(・)	指導・支援(○)と評価(◎)
導 入			

- ・ 本時の個人目標に基づいて評価の観点を設定
- ・ T 1、T 2の役割分担も明確に分かるよう記述

★ 8 授業の観点

- ・ 参観者が授業を見た後、協議の視点となるもの

例①

	学習活動	主な発問(○)・予想される児童の反応(・)	指導・支援(○)と評価(◎)
導 入	1 学習の流れを知る。	○今日の学習は、次のようにします。 ①じこしょうかい ②もちもの	○学習の見通しを持たせるために本時の流れを示し、板書する。
	2 前時までの学習を振り返る。	○なかよし遠足の日時や行き先はどこでしたか。 ・6月27日 火曜日 ・松島水族館	○前時までに使った提示物を示す。
展 開	3 学習課題を知る。	自己紹介をしよう	○今までの学習を思い出し、大事なことを板書する。
	4 話し方について思い出す。	○みんなの前で話すときに気をつけることは何でしょう。 ・声の大きさ 3 ・ゆっくり はっきり言う ・相手の顔を見る	◎適切な話し方について発表できたか。(発表)
	5 「自己紹介」をする。	○各自で、練習をしてから、みんなの前でやってみましょう。 ○話すときに気をつけることはできていましたか。 ・“3”の声の大きさを言っていました。 ・顔を見て話していました。	○以下のように支援する。 T1…A児、D児、E児 T2…B児、C児、J児 S1…G児、H児 S2…F児、I児 ◎自己紹介をした後に、一人ずつ評価をする。(発表)
	6 持ち物を確認する。	○持ち物をワークシートに書いていきましょう。 ・リュックサック ・水とう	○実物を見せながら、持ち物の名称を確認してから書くようにする。 ◎正しく表記したり、平仮名シールを合わせたりできたか。 (ワークシート)
ま と め	7 次時の学習を知る。	○なかよし遠足に持って行くおやつを、自分たちで買いに行きます。上手に買うために、お金やお店での約束について学習します。	○おやつを買いに行くことを知らせ、意欲を高める。

例②

	学習活動	主な発問(○)・予想される児童の反応(・)		指導・支援(○)と 評価(◎)
		1年生	2年生	
つかむ	1 学習の流れを知る。(1、2年生)	○今日の学習は、次のようにします。 ①音読 ②ことばかあど ③ひらがな	①音読 ②ことばかあど ③聞きとりゲーム	○学習の見通しを持たせるために本時の流れを示し、板書する。 ○ウォーミングアップのために、音読カードで声を出し、発表する。
	2 ウォーミングアップをする。(1、2年生)	○音読カードを2回練習しましょう。 ○みんなの前で発表します。		
わかる・できる	3 学習課題を知る。(1年生)	濁音を正しく読もう ○正しく書かれているのは何番ですか。 ・②はがき ・③えのぐ ・②たべもの	○正しくノートに書きましょう。	○A 児はカードに書かれている言葉を読む。 ○B、C、D 児は、カードの絵を見てノートに正しく書く。 ◎正しい書き方を選ぶことができたか。 【A 児 発表】
	4 学習課題を知る。(2年生)	○ひらがなのプリントをしましょう。	聞きとり名人になろう ○大事なことをメモを取りながら聞いて、どの人かを当てましょう。	
チャレンジする	5 「聞きとりゲーム」をする。(2年生)			○聞いているときは、各自のシートにメモを取るようになる。 ○大事なことをメモに書かせ、言う練習をしてからクイズを出し合う。 ○メモだけで難しい場合は、話す型を示す。 ◎大事なことを落とさずに話すことができたか。 【B、C、D 児 発表】
	6 濁点をつけて正しく書く。(1年生)	○絵カードの名前を平仮名カードで並べましょう。濁点がある文字には、濁点を書きましょう。 ・ぞう ・ねずみ ・ひつじ ・いちご ・ぶどう	○大事なことを落とさずに、問題を作ってクイズを出し合しましょう。	
ふりかえる	7 振り返りをする。	○正しく濁点をつけることができましたか。	○大事なことを落とさずにクイズを出すことができましたか。	◎各自の力に合わせてメモを取ることができたか。 【B、C、D 児 観察・メモ】 ◎濁点を正しくつけることができたか。 【A 児 観察】

〇〇・〇〇学級 国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日（金）第4限目

場 所 〇〇 教室

指導者 教 諭 〇〇 〇〇 (T)

支援員 〇〇 〇〇 (S)

- 1 題材名 2年生…ともこさんは どこかな (光村図書 2年上)
1年生…かきとかぎ (光村図書 1年上)

2 題材の目標

2年生

- (1) 大事なことが伝わるように、順序や発音・発声を意識して話している。 (話すこと・聞くこと)
(2) 大事なことを落とさないように、メモを取りながら聞いている。 (話すこと・聞くこと)

1年生

- (1) 濁音の表記を理解し、正しく読んだり書いたりできる。 (言語についての知識・理解・技能)

3 児童について (1年男子1名, 2年男子2名, 2年女子1名 計4名)

本校の特別支援学級は青空学級 (自・情) と若葉学級 (知) の2学級あるが、主に種別をとりて学年に分かれて学習することが多い。各児童の様子は以下のようなものである。

	児童の様子	話すこと・聞くこと・書くことについて
A児 1年 男子	気分や興味関心により、課題に取り組めるときと取り組めないときがある。正しい姿勢で座っていることが難しい。	小声で話し、聞き取りにくい。平仮名を読むことはできる。書くことは学習している途中である。
B児 2年 女子	動作がゆっくりしている。周りに気が向いてしまい、自分がすることを忘れてしまうことが多い。	人前だと話せなくなることが多い。静かに座っているが一斉指示の理解は難しい。丁寧な字で書くことができる。
C児 2年 男子	自分の思い通りにならないと大泣きする。正しい姿勢で座っていることが難しい。	人前だとスムーズに言葉が出てこないことがある。発音が不明瞭な音がある。聞いて理解できる。書くことは苦手である。
D児 2年 男子	決められた通りに進めば落ち着いている。急に変更したり、順番が後になったりすると自分で頭をぶついたり大泣きしたりする。	決まった型の言い方を覚えれば、話すことができる。静かに座っているが、一斉指示の理解は難しい。聞いて書くことができる。

4 指導について

2年生は、大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと、大事なことをメモすることや伝えることを取り扱う。1年生は、平仮名の習得と共に、濁音について取り扱う。

①わかる・できる授業作りのための工夫

国語の時間には、毎時間ほぼ同じ流れで学習を進めるようにしている。その時間の流れを示すことやパターン化することで、見通しをもって取り組むことができるようにする。また、学習内容を3つに分けて授業を展開することで、学習意欲を維持できるようにする。

2年生には、「迷子探しゲーム」や「聞き取りゲーム」のようなゲーム的な場面を設定し、興味をもって聞く力や注意して聞く力をつけていきたい。書く力には、個人差がかなり見られるので、メモを取るためのシートを個に応じて工夫したい。

1年生は、絵カードや平仮名文字カードを使って、学習を進められるようにする。

②チャレンジする力を育てるための工夫

2年生は、大事なことを落とさずに聞く活動の次に、出題する活動を取り入れる。聞くときに大事だったことは、出題するときにも大事なことであることを知らせたい。

1年生は、清音の言葉に濁点を加える活動を行い、濁音の理解につなげたい。

5 指導と評価の計画

2年生

6時間配当（本時 4/6）

時	学習内容	評価規準，評価の観点，評価方法		
		関・意・態	話すこと・聞くこと	書くこと
1	・「迷子探しゲーム」をし、大事なことは何かを考える。大事なことのメモを取る。	人物を探す手かりとなる大事なことが分かる。 【観・発】		
2	・「迷子探しゲーム」をし、大事なことのメモを取る。		大事なことを落とさないように聞いている。 【観・発】	簡単なメモの取り方が分かる。 【記】
3	・「聞き取りゲーム」をして、大事なことを落とさないようにメモを取りながら聞いたり話したりする。		大事なことを落とさないように聞いたり、話したりしている。 【観・発】	大事なことをメモすることができる。 【観・記】
4 本時				
5	・「連絡ゲーム」をし、身近な事柄を連絡する時に、大事なことは何かを考える。	連絡する時の大事なことが分かる。 【観・発】		
6	・「連絡ゲーム」をして、大事なことを落とさないように話したりメモを取りながら聞いたりする。		連絡事項で大事なことを落とさないで聞いたり、話したりしている。 【観・発】	大事なことをメモすることができる。 【観・記】

1年生

4時間配当（本時 4/4）

時	学習内容	評価規準，評価の観点，評価方法	
		関・意・態	言語についての知識・理解・技能
1	・濁音のある言葉を読んだり、正しい表記を選んだりする。	濁音の言葉を読もうとしている。正しい濁音の表記を選ぼうとしている。 【観・発】	濁音が入った言葉を読むことができる。 【発】
2			濁点をつけて、正しい言葉にすることができる。 【記】
3	・清音の言葉に濁点をつけて、正しい言葉にする。		
4 本時			

6 本時の目標

- 2年生・・・大事なことを落とさないように話したり、メモを取りながら聞いたりすることができる。
- 1年生・・・濁音が入った言葉を正しく読むことができる。

<個別のねらい>

A児	・みんなに伝わるように音読発表ができる。 ・濁音が入った言葉を正しく読むことができる。
C児・D児	・見本を見ながら、大事なことを落とさずに話すことができる。 ・一人で簡単なメモを取ることができる。
B児	・見本を見ながら、大事なことを落とさずに話すことができる。 ・支援を受けながら簡単なメモを取ることができる。

7 準備物

音読カード　メモシート　聞き取りゲーム用の紙
言葉カード　平仮名プリント　平仮名文字カード　ホワイトボード

8 本時の学習過程

	学習活動	主な発問(○)・予想される児童の反応(・)		指導・支援(○)と評価(◎)
		1年生	2年生	
つかむ	1 学習の流れを知る。(1, 2年生)	○今日の学習は、次のようにします。 ①音読 ②ことばかあど ③ひらがな	①音読 ②ことばかあど ③聞きとりゲーム	○学習の見通しを持たせるために本時の流れを示し、板書する。
	2 ウォーミングアップをする。(1, 2年生)	○音読カードを2回練習しましょう。 ○みんなの前で発表します。		○ウォーミングアップのために、音読カードで声を出し、発表する。
わかる・できる	3 学習課題を知る。(1年生)	濁音を正しく読もう ○正しく書かれているのは何番ですか。 ・②はがき ・③えのぐ ・②たべもの	○正しくノートに書きましょう。	○A 児はカードに書かれている言葉を読む。 ○B,C,D 児は、カードの絵を見てノートに正しく書く。 ◎正しい書き方を選ぶことができたか。 【A 児 発表】
	4 学習課題を知る。(2年生)	○ひらがなのプリントをしましょう。	聞きとり名人になろう ○大事なことをメモを取りながら聞いて、どの人かを当てましょう。	○A 児は、S と平仮名を書く学習をする。その後も、S と学習を進める。
チャレンジする	5 「聞きとりゲーム」をする。(2年生)			○聞いているときは、各自のシートにメモを取るようになる。
	6 濁点をつけて正しく書く。(1年生)	○絵カードの名前を平仮名カードで並べましょう。濁点がある文字には、濁点を書きましょう。 ・ぞう ・ねずみ ・ひつじ ・いちご ・ぶどう	○大事なことを落とさずに、問題を作ってクイズを出し合しましょう。	○大事なことをメモに書かせ、言う練習をしてからクイズを出し合う。 ○メモだけで難しい場合は、話す型を示す。 ◎大事なことを落とさずに話すことができたか。 【B,C,D 児 発表】
ふりかえる	7 振り返りをする。	○正しく濁点をつけることができましたか。	○大事なことを落とさずにクイズを出すことができましたか。	◎各自の力に合わせてメモを取ることができたか。 【B,C,D 児 観察・メモ】 ◎濁点を正しくつけることができたか。 【A 児 観察】

9 授業の観点

一人一人への支援は適切であったか。

〇〇〇〇学級 道徳学習指導案

平成〇年〇月〇日(水) 第2校時
 場 所 〇〇〇〇学級
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 主題名 言葉のもつ力 2 - (1) 礼儀

2 資料名 「一秒の言葉」(日本標準)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人は言葉を使い生活をしている。誰でも人と触れ合う中で、言葉によって人間関係がうまくいったり、ぎくしゃくしたりするを経験したことがあるといえる。そんな中、最近の児童は、「うざい」「きもい」といった言葉を無造作に使っている現状があり、言葉の重みや言葉のもつ力が軽視されている傾向がある。

そこで、本資料を通して、言葉が自分と相手とをつなぐ大切なものであることに気付かせるとともに、たとえ一秒の短い言葉であっても、相手を喜ばせたり、悲しませたり、傷つけたり、勇気を与えたりする力をもっていることを実感させたい。また、本時の授業をきっかけに、相手を傷つけるような言葉づかいを慎み、相手の気持ちを考えて言葉を使おうとする心情を育てたい。

(2) 児童について (〇〇〇〇学級 4年男子2名,
 〇〇〇〇学級 5年男子2名, 6年男子1名 計5名)

本校の特別支援学級は、自閉症・情緒障がい特別支援学級の〇〇〇〇学級と知的障がい特別支援学級の〇〇〇〇学級の2学級がある。児童はそれぞれの障がい種別に分かれて在籍しているが、朝の会や帰りの会、道徳や自立活動などの指導は2学級合同で行っている。

児童は、〇〇〇〇・〇〇〇〇学級を自分の心の居場所としており、どの児童ものびのびと安心して過ごしている。一方で、それぞれの障がい特性から、ささいなことでぶつかり、児童が相互に軽い気持ちで乱暴な言葉を口にする場面も多く見られる。また、コミュニケーション面や対人面でのスキルが未熟な児童が多く、交流学級においては、積極的に友達と関わったり、自分らしさを発揮したりすることが少ないように思われる。

これらのことから、児童が普段使っている自分の言葉を振り返り、言葉がもっている力について理解を深め、それを活用できるようにすることが重要であると考えられる。

(3) 資料について

本時に使用する資料は、セイコーの企業 CM として作られ、全日本ラジオ CM 大賞を受賞した作品である。60秒の CM に起用された作品だけに、簡潔でインパクトのある印象を受ける。また、文が短く量も少ないため、特別支援学級の児童にも抵抗なく読むことができる。言葉のもつ意味や力を実感させ、さりげない一言に込められた心を読み取るのに最適の資料と考える。

(4) 指導について

導入で「人は 生きていけない」の言葉を提示し、 を考えさせることで、言葉が人とつながる大切なものだということをおさえてから、本時の学習に入りたい。

その後、児童が普段使っている言葉を振り返る活動を取り入れる。集中力の短い児童が多いので、活動に付箋を用いることで、机上での児童の動きを保障したい。また、児童の障がい特性から、乱暴な言葉に敏感に反応して面白がることも予想されるが、自分がその言葉を言われてどんな気持ちになるのかを丁寧におさえることで、言葉のもつ重みを感じとらせたい。

また、「一秒の言葉」の資料提示には、実際に放映された CM 動画を活用することで、児童の視覚に訴え、資料への興味関心を高めると同時に、資料への理解を深めることにつなげたい。

4 本時のねらい

言葉は自分と人をつなぐ大切なものであることに気付き、言葉のもつ力や重みを理解し、相手の気持ちを考えて言葉を使おうとする心情を育てる。

5 準備物

ワークシート①②③ 付箋 タイマー iPad セイコー企業 CM 動画 タイムタイマー

6 本時の展開

学習活動（主な発問と予想される反応）	教師の支援(○)と評価(◎)
<p>1 □に入る言葉を考え、本時の学習について知る。 人は 生きていけない。</p> <p>○□には、どんな言葉が入るでしょうか。 ・食べ物がないと ・空気がないと ・お金がないと ・一人では</p> <p>○どういう意味でしょうか。 ・家族や友達と一緒に生きている ・人とつながっている</p> <p>○誰とつながっていますか。 ・家族 ・友達 ・先生</p> <p>○人とつながる道具(手段)は何ですか。 ・お金 ・言葉 ・携帯電話 ・メール</p>	<p>○思ったことを自由に発表できるようにする。</p> <p>○黒板に写真やイラストを貼り、考える手がかりとする。</p> <p>○人は一人では生きていけない→人とつながる→言葉でつながることをおさえる。</p> <p>◎言葉は自分と人とをつなぐ大切なものであることに気付くことができたか。(発言)</p>
<p>2 普段の生活で使っている言葉を振り返る。</p> <p>○普段使っている言葉のうちで、短い言葉を付箋に書きましょう。 ・ありがとう・ごめんなさい・ってきます ・がんばって・だいじょうぶ・うざい ・きもい ・めんどくさい・死ね</p> <p>○付箋の言葉を、自分が言われて嬉しくなったりやる気が出たりする言葉、自分が言われて悲しくなったり傷ついたりする言葉に分けてワークシート①に貼りましょう。</p> <p>○分けた言葉の中から、自分が言ったり言われたりした時の場面や気持ちを発表しましょう。</p>	<p>○教師の好きな言葉を例示して、イメージを持たせてから付箋を配る。</p> <p>○言葉が出てこない児童には、普段の生活場면을思い出させるような声かけをする。</p> <p>○タイマーを使い、書く時間の見通しをもたせる。</p> <p>○出た言葉を2つに分けて、その時の場面や気持ちを問うことで、言葉が人とのつながりを強くしたり、切ったりするものになることに気付かせる。</p> <p>○乱暴な言葉を楽しむ雰囲気が出てきた時にはその言葉を取り上げ、自分が言われた時にどんな気持ちになるのかをおさえる。</p> <p>◎自分が普段使っている言葉を振り返り、言葉がもつ力や重みについて理解を深めることができたか。(発言・ワークシート)</p>
<p>3 資料「一秒の言葉」の空欄部分に入る言葉を考え、その後実際に使われたセイコーの企業CMを見る。</p> <p>○ワークシート②の「 」には、ある短い言葉が入ります。それぞれどんな言葉が入るか考えて書きましょう。</p> <p>○1984年に放映されたセイコーの企業CM「一秒の言葉」を見ましょう。</p> <p>○資料「一秒の言葉」を、声に出してゆっくり読んでみましょう。</p>	<p>○ワークシート②は穴埋め式を用意し、時間をかけすぎないように、3分をめどに声かけする。</p> <p>○拡大資料を黒板に提示し、児童に目で追わせながら、一緒に声を出して読ませる。</p>
<p>4 授業の感想をワークシート③に書く。 ○言葉について、考えたことを書きましょう。</p>	<p>◎相手を傷つけるような言葉づかいを慎しみ、相手を思う言葉づかいをしようとする意欲が見られたか。(ワークシート)</p>

7 授業の観点

付箋を使って自分が普段使っている言葉を振り返る活動や、穴埋め式のワークシートを用いたことは、言葉がもつ力や重みについて理解を深めるための手立てとして有効だったか。

8 反省

9 ご高評

日時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第5校時

場所 〇〇〇〇1組

指導者 〇〇 〇〇

1 題材名 体験したことを伝え合おう

2 題材の目標

- (1) 自分に合った方法で作文を書くことができる。(3- (3) 人間関係の形成)
- (2) 友達との意見交換を通して語彙や表現方法を増やすことができる。(3- (2) 人間関係の形成)
- (3) 聞き手を意識して話すことができる。

(6- (1), 6- (5) コミュニケーション, 3- (3) 人間関係の形成)

3 生徒の実態

〇〇〇〇学級は自閉症・情緒障害学級(男子3名, 女子4名)と知的障害学級(男子1名, 女子3名)の2学級である。教科の指導を中心としているので, 全員で集まる時間は少ない。しかし, 今年度は, できるだけ学級作りに力を入れ, 自分の思いを豊かに表現し, 他者の思いを理解して, 積極的に集団活動に参加することができる生徒の育成を目指したい。そこで, 全員で夏休みにボランティア活動に取り組んだり, 学校祭では協力してステージ発表に挑戦したりした。

〇〇〇〇学級の1学年の生徒(男子2名, 女子1名)の実態は次の表の通りである。真面目に課題に取り組むことができる。しかし, 自分の考えを他の人に伝えることについては苦手意識をもっている生徒が多い。相手がどう思うかという心配が先に立ち, 自分の思いを言えない生徒もいる。また, 自分の思いは言えるが, 思いつきで話し, 相手にうまく伝わらずトラブルになってしまうという生徒もいる。人と関わりたい意欲はあるが, 自分の思いをうまく伝えられなかったり, 他者の思いに気がつかなかったりすることが多い。特に, ほとんどの生徒が自分の考えを書くことに苦手意識を持っている。毎日の生活ノートを見ても, 同じような文を繰り返していたり, 自分の思いを全く書けずいたりすることが多い。

	人間関係の形成について	コミュニケーションについて
A (男子)	同級生と関係を作ることには非常に消極的である。大人との関係を強く求める。人が怖い, 学校が怖いと訴えることが多い。特定の人との関わりの中では積極的な面を見せる。	いろいろな人に気をつかう反面, 他者の人の気持ちが読めず, 自分中心の話題が多い。言葉遣いが大人びている。
B (男子)	積極的に自分の思いを表現することは少ないが, 同級生との関係をうまく作っていて, 気の合う友達がたくさんいる。	自分の思いを話しことばで伝えることや書きことばで伝えることが苦手であるが, 聞かれたことに対しては短い言葉で伝えることはできる。
C (女子)	自分の思いばかりが先に立ってしまい, 時と場や相手の気持ちを考えることが難しいため, トラブルになることが多い。明るく, 積極的に人と関わろうとする。	思いつきで話すことが多く, 相手の意図を汲んで話すことができないため, 話しがかみ合わないことが多い。自分の思いを表現することは好きである。

4 題材について

本題材「体験したことを伝え合おう」では, 自分の体験したことを分かりやすく相手に伝えるための工夫を

考えることを通してコミュニケーションの基礎的能力の育成を目指している。

この単元では、自立活動の6区分27項目の内、「3人間関係の形成」と「6コミュニケーション」に重点を置いて指導を進め、学級作りの一環としてお互いの体験したことを伝え合い、お互いを理解することにもつなげていきたい。

次の自立活動の区分と項目を重点をおいて指導を行っていく。

- 3 人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。
(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。
(4) 集団への理解と行動の調整に関する事。
- 6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

その他にも、課題を遂行するにあたって、次の区分と項目にも留意する。

- 2 心理的な安定 (1) 情緒の安定に関する事。
- 3 環境の把握 (2) 感覚の認知の特性への対応に関する事。
- 5 身体の動き (5) 作業の必要な動作と円滑な遂行に関する事。

具体的には、10月29日～30日に行った1年生の宿泊体験での様子を作文に書いて発表する。伝える相手を明確にし、聞き手に分かりやすく表現するためにはどのような工夫をしたらよいかを話し合い考えさせたい。作文をじっくり書くことで、自己をより深く理解し、自己の思いを再確認することができると思う。作文を書くことには苦手意識がある生徒が多いが、段階をより細かく踏み、丁寧な支援を行うことで、書けたという成功体験につなげたい。

題材の最後には、できあがった作文を利用して、〇〇〇〇学級の上級学年に発表し、自分の思いを相手に伝えることの喜びを味わわせたい。話すことについての技能を高め、コミュニケーションの力が身につくような支援を目指すとともに、友達の発表を聞き、友達のつたえたいことや思いを理解することができるようにしたい。また、2年生の職場体験や3年生の高校体験入学の発表をしっかりと聞くことで、今後の学校生活への見通しがもてるような発表会にしたい。

5 指導について

自分の思いを書くことの具体的な指導としては、短冊メモを活用する。短冊メモに自分の考えや思いを短い文で書き、それを並び替えていくことで作文に仕上げていく活動を行う。並び替える時には、友達と意見交換をして、時系列で並べるとよいことや、自分の思いをより豊かに表現するために五感を使って表現することや気持ちを表現することについて考えさせたい。友達の考えやアドバイスを聞き短冊を増やすことで、よりよい作文になっていくこと実感させたい。短冊メモがたくさんかけたら適切な接続語でつなぎ、作文を構成していく。最後に、初めの文、まとめの文を書き加えて作文を仕上げる。国語の内容でもある「序論」「本論」「結論」という言葉も知らせたいと考えている。また、書いた作文をつなぎ合わせることで、どれだけ詳しく書けたかを視覚的につかむことができるようにする。作文を書く手順が分かり、うまく書けた、たくさん書けたという成功体験を味わわせたい。

それぞれの生徒への個別の支援は次の通りである。

生徒	生徒の実態	個別の支援
A	・不安や疲れを訴えることが多く、学習活動に参加できないことが多い。	・学習に見通しを持たせるために、学習の予定表を机の上に置きいつでも確認できるようにする。2- (1) ・座席は、教師のそばにする。2- (1)

	<ul style="list-style-type: none"> ・画数の多い漢字を覚えたり正確に書き写したりすることが難しい。 ・自分が得意なことや自信をもっていることに対しては、とても積極的に話したり活動したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイス役として作文の発表を聞き、意見を言ったり個別にアドバイスしたりできるように声をかける。6－(1), 6－(5) ・分からない漢字は、ホワイトボードを活用して、大きく書いて示して、それをそばに置く。4－(2) ・大きめの短冊を使い、大きめの文字で書けるようにする。 4－(2) ・活躍を認める声かけをして自信をもつことができるようにする。 3－(3)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動などでは、緊張することが多いが活動に参加することはできる。 ・画数の多い漢字を覚えたり正確に書き写したりすることが難しい。 ・筆圧が弱く、正確なしっかりした字が書けないことがある。 ・音に敏感で大きな声や物音を怖がる。 ・整理整頓が難しい。 ・言葉で自分の思いを相手に伝えることが苦手である。 ・集中が長く続かない。 ・文章で表現することに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に見通しを持たせるために、学習の予定表を机の上に置きつつも確認できるようにする。2－(1) ・分からない漢字は、ホワイトボードを活用して、大きく書いて示して、それをそばに置く。4－(2) ・大きめの短冊を使い、大きめの文字で書けるようにする。 4－(2) ・濃い鉛筆や太いマジックなどを使うように伝える。5－(5) ・できるだけ穏やかにゆっくり指示を出す。2－(1), 6－(1) ・大きい机を使って作業をする。机をすっきりさせて作業ができるようにする。5－(1) ・発表の話形を示し、安心して話し出せるようにする。 2－(1) 6－(1), 6－(5) ・座席は前にする。余計な物を机の上に置かないよう指示を出す。 5－(5) ・短冊が増えたことを視覚的に示したり、ほめたりして自信をもつことができるようにする。3－(3)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく積極的である。失敗してもあまり気にせず前向きに考えることができる。 ・抽象的な表現を理解することが難しい。 ・作業に時間がかかる。 ・発音が不明瞭であったり、話す速度が速かったりして、相手に思いが伝わらないことがある。 ・意欲はあるが長い文章を書くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に見通しを持たせるために、学習の予定表を机の上に置き、いつでも確認し前向きに活動できるようにする。2－(1) ・できるだけ分かりやすい言葉を使い、ゆっくりと指示を伝え、写真やイラストなどを見せて理解を促す。理解が難しい場合は、個別に指示を繰り返して伝えたり、友達の様子を見て作業ができるようにする。4－(2) ・作業の量を少なくする。5－(5) ・発表の時には、ゆっくり話すことや口をしっかりと開けて話すことを知らせる。6－(1) ・短冊が増えたことを視覚的に示したり、ほめたりして自信をもたせ、この方法を今後も使うように声をかける。3－(3)

6 題材の評価規準

時	学習活動	人間関係の形成	コミュニケーション	その他の項目や国語科との関連
1	題材の学習活動について見通しをもつ。			見通しをもって学習活動に安定して取り組むことができる 2－(1)
2 3	体験したことから心に残ったことを2つ選んで短冊メモに書き表す。	自分の思いを書き言葉で表現することで、自己をふりかえることができる。3－(3)		
4 5	メモを並び替えて相手を意識した分かりやすい文章にする。(本時4/10)	自分の思いを豊かに表現することができる。3－(3)	友達の意見を聞きながら、自分の思いを分かりやすく書こうとすることができる。 6－(1)	順序立てた文章の構成を考えることができる。(国語) 接続語を適切に使って文章を構成することができる。 (国語)
6	初めの文、まとめの文を書く。		他者を意識して、自分の思いを分かりやすく書こうとすることができる。6－(1)	段落の役割を考えて文を書くことができる。(国語)
7	作文を清書する。			字の大きさや筆圧を意識しながら、丁寧に書くことができる。5－(5) 既習の漢字をできるだけ使って書くことができる。 4－(2)
8	分かりやすく発表するために工夫を考える。		状況に応じた分かりやすい発表の仕方を考えることができる。6－(5)	
9	発表練習をする。	どんな発表会にしたいかを考え、目標をもつことができる。3－(4)	話す速度や音量、間の取り方に気をつけて練習することができる。6－(1)	
10	発表会をする。	友達の発表に関心をもって聞くことができる。3－(2) 3－(4)	聞き手を意識して、聞き手の反応を見ながら話すことができる。6－(5)	友達の発表を聞き、今後の自分の在り方について見通しや希望をもつことができる。 2－(1)

7 本時の学習

(1) 目標

- ・自分の思いを豊かに表現することができる。(人間関係の形成) 生徒ABC
- ・友達の意見を聞きながら、思いの伝わる文章を書こうとしている。(コミュニケーション) 生徒AB
- ・友達の意見を聞いたり、写真やイラストを見たりして、思いの伝わる文章を書こうとしている。

(コミュニケーション) 生徒C

(2) 準備物 PC, 短冊カード, 短冊を貼っていく台紙, イラストのカード, ホワイトボード, マジック

(3) 学習過程

時間	生徒の活動	支援・対応と手立て	対象生徒と項目
0分	○短冊メモが何枚書けたかを発表し合う。 ・私は10枚書けた。	・どんなことを書いたのかいくつか紹介する。	
3分	○本時の学習課題と学習の流れを知る。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">短冊メモを並べ替えたり、つけ加えたりして分かりやすい作文にしよう。</div>	・学習に見通しを持たせることで情緒の安定を図る。	A2-(1)
5分	○4人で相談して、教師の書いた短冊カードを並べ替えて、黒板に貼っていく。	・どのような順序で貼るとよいかを考えることができるような声かけをする。 ・大きめの文字の短冊カードを準備する。	AB 4-(2)
10分	○並べてできた文章を音読する。 ○カレー作りの楽しさが伝わったかどうか意見を出し合う。 ・できるだけ、順番になるように並べるとよい。 ・もう少し詳しく書くといい。魚を捕まえた時の様子を書くときよい。	・読み手に自分の思いを分かりやすく伝えるためには、どのようにしたらよいか考えることを伝える。 ・意見を発表しやすくするために、話形を示しておく。	ABC 6-(5) 2-(1) 6-(1)
20分	・自分の気持ちが書かれていない。 ○つけ加える短冊を書く。	友達の意見も聞きながら、思いを分かりやすく伝えるための工夫を考えていたか。(コミュニケーション/観察)	
20分	○つけ加えた短冊を貼り、発表する。 ○短冊と短冊の間に入れる接続語を考える。	・より詳しく分かりやすく書くためには、どのような短冊をつけ加えるとよいか考えることができるように声をかける。 ・写真や目・耳・心・鼻・口・手などのイラストのヒントを出す。 ・発表しやすくするために、話形を示しておく。 ・接続語のカードを示す。	ABC 3-(3) C 4-(2) AB2-(1) ABC—国語
30分	○自分の書いた短冊メモを使って、並べ替えやつけ加えの作業を行う。 ○接続語を考えて書き入れる。	・机間指導をして、声をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自分の思いを豊に表現するために、並べ方を工夫したり短冊をつけ加えたりしている。 (人間関係の形成/観察・ワークシート)</div>	ABC 6-(1)
45分	○作業の成果を確認する。 ・時間があればできた文章を発表し合う。	全文を読んでみておかしいところはないか確認するように声をかける。 ・はじめよりどのくらい詳しくかけたのかを視覚的に知らせ、成果を伝える。	ABC 3—(3)
48分	○次時の学習の予定を聞く。	・次時は、本時の作業の続きを行うことを知らせる。	ABC 2-(1)

8 授業の観点

- ・生徒の自立課題に応じた適切な支援ができていたか。
- ・短冊メモを使って作文を構成していく手段は、書き言葉でのコミュニケーションの力を育成するために適切であったか。
- ・本時の支援の中に、通常学級の授業でも取り入れられるものがあつたか。

令和〇年〇月〇日(〇)

第〇限目

場 所

〇〇 教室

指導者 教 諭 〇〇 〇〇 (T1)

教 諭 〇〇 〇〇 (T2)

支援員 〇〇 〇〇 (S1)

支援員 〇〇 〇〇 (S2)

1 単元名 レッツゴー なかよし遠足

2 指導計画

- 第一次 ・なかよし遠足について知ろう。 … 4時間
 ・自己紹介を考え、練習をしよう。 … 2時間 (2/2本時)
- 第二次 ・おやつを買いに行こう。 … 4時間
- 第三次 ・なかよし遠足 … 5時間
- 第四次 ・振り返りをしよう。 … 2時間

3 本時の目標

話すポイントに気をつけて、自己紹介をすることができる。
 持ち物を正しく言ったり、書き表したりできる。

	個別の目標	支援の手立て
A 児 1年 男子	授業に最後まで参加できる。 声の大きさに気をつけて話すことができる。 正しく平仮名を選ぶことができる。	支援員がそばで声をかけて活動を促す。参加が難しい時は、別室で活動する。
B 児 1年 男子	口を大きく開けてゆっくり話すことができる。 平仮名と平仮名シールを正しく合わせることができる。	口の形を見せながら、ゆっくり発音するように促す。みんなの前に出られない時には、次の時間に頑張るように促す。
C 児 1年 女子	口を大きく開けてゆっくり話すことができる。 平仮名と平仮名シールを正しく合わせることができる。	支援員がそばで声をかけて活動を促す。 口の形を見せながら、ゆっくり発音するように促す。
D 児 2年 女子	みんなの前に出て、一人で話すことができる。 平仮名やカタカナを正しく表記することができる。	話ができず活動が止まってしまったときは、支援員ともう一度練習するように促す。真似して話をしてよいことを伝える。
E 児 2年 男子	口を閉じて聞くことができる。 大きな声を出したり、泣いたりせずに授業に参加できる。	初めに学習の流れや学習のルールを確認する。 大泣きした時は、深呼吸をして落ち着くように促す。
F 児 2年 男子	落ち着いて授業に参加できる。 ゆっくり伝わるように話すことができる。 持ち物を正しく表記できる。	初めに学習の流れや学習のルールを確認する。 不安な様子が見られれば、その都度、声をかけるようにする。
G 児 3年 女子	授業に最後まで参加できる。 みんなの前に出て、話すことができる。 正しく平仮名を選ぶことができる。	支援員がそばで声をかけて活動を促す。 真似して話をしてよいことを伝える。
H 児 3年 男子	みんなの前に出て、話すことができる。 平仮名やカタカナを正しく表記することができる。	ワークシートを見て話してもよいことを伝える。 文字が出てこない時は、平仮名表やカタカナ表を見て、書くように促す。
I 児 5年 男子	お手本となる態度で授業に参加できる。 順番や課題を素直に受け入れ、周りに合わせて活動できる。	初めに学習の流れや学習のルールを確認する。 正しくできていることを認め、全体に知らせるようにする。
J 児 6年 男子	お手本となる態度で授業に参加できる。 口を開けて伝わるように話すことができる。 持ち物を正しく表記できる。	最高学年であることを伝え、自覚を持たせる。 ワークシートを見て話してもよいことを伝える。

- 4 準備物 ワークシート（各自、板書用） 平仮名シール
リュックサック 水筒 敷物 ハンカチ ティッシュ 雨具

5 本時の学習過程

	学習活動	主な発問(○)・予想される児童の反応(・)	指導・支援(○)と評価(◎)
導 入	1 学習の流れを知る。	○今日の学習は、次のようにします。 ①じこしょうかい ②もちもの	○学習の見通しを持たせるために本時の流れを示し、板書する。
	2 前時までの学習を振り返る。	○なかよし遠足の日時や行き先はどこでしたか。 ・6月27日 火曜日 ・松島水族館	○前時までに使った提示物を示す。
展 開	3 学習課題を知る。	自己紹介をしよう	○今までの学習を思い出し、大事なことを板書する。
	4 話し方について思い出す。	○みんなの前で話すときに気をつけることは何でしょう。 ・声の大きさ 3 ・ゆっくり はっきり言う ・相手の顔を見る	◎適切な話し方について発表できたか。(発表)
	5 「自己紹介」をする。	○各自で、練習をしてから、みんなの前でやってみましょう。 ○話すときに気をつけることはできていましたか。 ・“3”の声の大きさを言っていました。 ・顔を見て話していました。	○以下のように支援する。 T1…A児、D児、E児 T2…B児、C児、J児 S1…G児、H児 S2…F児、I児 ◎自己紹介をした後に、一人ずつ評価をする。(発表)
	6 持ち物を確認する。	○持ち物をワークシートに書いていきましょう。 ・リュックサック ・水とう	○実物を見せながら、持ち物の名称を確認してから書くようにする。 ◎正しく表記したり、平仮名シールを合わせたりできたか。 (ワークシート)
ま と め	7 次時の学習を知る。	○なかよし遠足に持って行くおやつを、自分たちで買いに行きます。上手に買うために、お金やお店での約束について学習します。	○おやつを買いに行くことを知らせ、意欲を高める。

9 授業の観点

注意を集中したり、持続したりするための手立ては適切であったか。

10 反省

11 ご高評

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握

① 障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，学習や生活の中で見られる長所やよさ，課題等について情報収集

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や，これまでの学習状況の視点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下，図15まで同じ)。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下，図15まで同じ)。

指導すべき課題の整理

③ ①をもとに②-1，②-2，②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し，中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	
-----------------------------	--

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

項目間の関連付け

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...
-------------------------	---	---	---	-----

図 2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

エ 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例

(ア) 図2（流れ図）について

図2は、個々の幼児児童生徒の実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例を示したものである。ここでは、実態把握から指導目標（ねらい）を設定したり、具体的な指導内容を設定したりするまでの過程において、どのような観点で整理していくか、その考え方について述べる。

はじめに、実態把握の段階である。図2の①は、実態把握のために必要な情報を収集する段階を示している。必要な情報を収集するに当たっては、本解説第7章の2の「(1)幼児児童生徒の実態把握」に示す、実態把握の観点、実態把握の具体的な内容、実態把握の方法を踏まえることが大切である。また、幼児児童生徒のできないことばかりに注目するのではなく、できることにも着目することが望ましい。

②は、①で収集した情報を整理する段階である。収集した情報をどのような観点で整理するかを例示している。②-1の「自立活動の区分に即して整理」とは、障害名のみによって特定の指導内容に偏ることがないように、対象となる幼児児童生徒の全体像を捉えて整理することを意図している。その際、本解説第6章に示す6区分27項目の解説を踏まえて整理することが大切である。②-2は、「学習上又は生活上の困難の視点で整理」する段階である。その際、これまでの学習状況を踏まえ、学習上又は生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできることなども記載することが望ましい。②-3は、幼児児童生徒の生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れた整理である。例えば、幼児児童生徒の「〇〇年後の姿」をイメージしたり、卒業までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定したりして整理することである。

次に、指導すべき課題を整理する段階である。③は、②で整理した情報の中から、指導開始時点で課題となることを抽出するものである。そして、④は、③で抽出した課題同士がどのように関連しているのかを整理し、中心的な課題を導き出す段階である。課題同士の関連とは、例えば、「原因と結果」や「相互に関連し合っている」などの観点や、発達や指導の順序等が考えられる。その際、本解説第7章の2の(2)「ア指導すべき課題相互の関連の検討」を踏まえて検討することが必要である。

そして、⑤は、④に基づき指導目標（ねらい）を設定する段階である。指導目標（ねらい）は、学年等の長期的な目標とともに、当面の短期的な目標を定めることが自立活動の指導の効果を高めるために必要である。指導目標（ねらい）を設定するに当たっては、本解説第7章の2の(2)「イ指導目標（ねらい）の設定と目標設定に必要な項目の選定」を踏まえて検討することが大切である。

さらに、⑥は、⑤の指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目を選定する段階である。ここでは、自立活動の内容6区分27項目から必要な項目を選定するが、その際は、本解説第7章の2の(2)「イ指導目標（ねらい）の設定と目標設定に必要な項目の選定」を踏まえて選定することが大切である。

そして、⑧は、⑥で選定した項目同士を関連付けて具体的な指導内容を設定する段階である。その際、根拠をもって項目同士を関連付けることが大切である。このため⑦に項目同士を関連付けるポイントを示すこととした。選定した項目同士を関連付ける場合、「⑤の指導目標を達成するためには、こんな力を育てる必要がある。したがって、区分〇〇〇の項目〇〇と区分□□□の項目□□とを関連付けて指導する。」など、④で行った課題同士の関連や整理を振り返りながら検討することが大切である。

最後に⑧の具体的な指導内容を設定するに当たっては、本解説第7章の2の「(3)具体的な指導内容の設定」を踏まえて検討することが大切である。なお、⑥と⑧を結ぶ線は、⑥の各項目と関連する⑧の具体的な指導内容とを結んだものである。

第3章 自立活動の意義 と指導の基本

(4) 図2を踏まえた例示（図3から図15まで）と解説について

個々の幼児児童生徒の「実態把握」から「具体的な指導内容の設定」に至るまでの流れについて、はじめに2事例を挙げて解説する。残りの11事例については巻末に掲載している。なお、図3から図15までの「事例の概要」は、あくまで⑤の指導目標（ねらい）を明らかにした上で記されたものであり、最初に「事例の概要」を定めた上で指導目標（ねらい）を定めたものではない。また、自立活動の指導を行う上での実態把握は、本解説第7章の2の「(1)幼児児童生徒の実態把握」を参照しながら、実態把握に必要な内容や範囲を明確に整理した上で的確に行う必要がある。よって、「事例の概要」の内容を前提に行われるものではないことにも留意する必要がある。

なお、図3から図15までの①については、⑤の指導目標（ねらい）に関連した実態について掲載している。

自立活動の指導においては、個々の幼児児童生徒の実態に即して、指導の道筋そのものを組み立てていくことが求められる指導であることに留意することが大切である。よって、収集された多様な情報の整理の方法はいろいろ考えられるが、まずは、例示を踏まえ、「実態把握」から「具体的な指導内容の設定」に至るまでの流れについてのイメージをもってほしい。特に、指導目標（ねらい）を達成するために必要な具体的な指導内容を考える際には、幼児児童生徒の実態を踏まえて、幾つかの項目を組み合わせる必要があることに十分留意することが大切である。言い換えれば、自立活動の6区分27項目の内容は、具

体的な指導内容を検討する際の視点を提供しているものと言える。

最終的には、自立活動の指導は教師が責任をもって計画し実施するものである。

図3	肢体不自由（脳性まひ）と重度の知的障害	P	32
図4	聴覚障害	P	36
図5	視覚障害	P	128
図6	聴覚障害	P	132
図7	知的障害	P	136
図8	肢体不自由	P	140
図9	病弱	P	144
図10	言語障害	P	148
図11	自閉症	P	152
図12	学習障害	P	156
図13	注意欠陥多動性障害	P	160
図14	高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）	P	164
図15	盲ろう	P	168